自立と他者支援の精神を育む
「縫製プロジェクト」概要　（2014 年 5 月現在）

当特定非営利活動法人 CEALO グローバル・ハーモニー・ジャパンの人道支援の一環として、貧困層の女性自立支援のために 2004 年ミャンマーで開始。きっかけは、拠点として利用させて頂いている寺院の近隣で手術代の払えない若い夫婦から支援を求められ、何とかお金を返したいと夫婦がミシンで袋を作ってきたことである。

当初、貧困村や孤児院などに米や物資配布の事業活動を中心に行っていたが、それらの活動に参加していた現地ボランティア含め、収入がなく厳しい生活をしていても、自分達より更に貧しい人々のために奉仕活動に関わりたい、自分達も何か出来ることをやりたい、という希望があがるようになり、ミシンの使い方、簡単な衣類の作り方指導を始める。

以降、ミャンマー国内で、自宅や寺院内に特別に設置させて頂いたミシン室を利用し、工賃ベースで収入支援を行い、買い取ったものを市場に出したり、孤児院や村支援の衣類物資にしたり、個人の生活支援だけではなく事業活動継続の資金にも充当してきた。また、次第に技術的に向上してきたことから、日本の協力者（個人・グループ・団体）により衣類作品が購入支援されるようになる。

また、地方で少数民族の貧困世帯の子弟や孤児を養護し教育支援を行っている、当団体設立以前から 15 年来の支援先である施設内（寄宿者：0～18 歳/600～800 名）にミシン縫製室ができ、積極的に縫製プロジェクトの活動をリードしてきたリーダー含む数名のメンバーが不定期に訪問し、ミシン指導を行うようになる。

その施設内の縫製室は、主に女子学生が手に職をつけられること、そして、入所中の子ども達の衣類を作成することを目的に教育実習が行われているが、この施設支援と縫製室の応援、そして、他の貧困村の支援活動の両方を兼ねることができるため、施設に生地を提供し、支援物資の衣類作成をしてもらい、買い取りを行う支援も行ってきた。2011 年の東日本大震災後は、日本の被災者のために布製の蚊帳を作り届ける活動も行った。

2011 年後半には、この施設にミシン室が拡張され、ちょっとした工房風になった。ミャンマー国内での技術指導や制作活動は実施しにくい事情もあり、2012 年より、東南アジアの活動拠点としてカンボジアに設立された DACC という民家を利用した活動センターに、ミャンマー人の縫製プロジェクトメンバー数名が集中訓練のため在住。現在は、ミャンマー国内の内職メンバーと DACC 駐在メンバー、ミャンマーの施設内での縫製室合わせて、約 30 名程度がそれぞれに活動を行っている。

2014 年 4 月からは、このミャンマーの施設内にある縫製室に残ることを決め、子ども達の縫製教員スタッフ候補生として頑張っている女子 4 名（19～24 歳・内数名は大学等にまだ就学中）が集中技術訓練のため、縫製プロジェクトリーダー（現在はミャンマーで日本語塾も経営）と共にカンボジアを訪れ、5 週間の滞在研修が行われた。研修では、教員候補生の若者に縫製技術とマネジメント能力の基礎を学んでもらうと同時に、技術面や自己の経済自立だけではなく、施設への還元、施設内の子ども達や他者支援ができる人材となれるよう、奉仕精神を意識した心の育成も目的としている。

尚、この縫製プロジェクトは、カンボジアの DACC 活動センターの駐在支援を行っている NPO 法人グローバルハートスペース始め、個人レベルの支援協力者により支えられており、今回の研修はグローバルハートスペースが主幹、当 CEALO グローバル・ハーモニー・ジャパンは、ミシンや教材、設備等の提供や資金援助を行った。

今回のカンボジアにある日本と東南アジアの懸け橋拠点、DACC にて研修に参加したミャンマーの教員スタッフ候補生と、縫製プロジェクトリーダー（写真中央）